

通信教育課程 シラバスの見方

目 次

1. 通信教育課程・シラバスの見方(2019 年度入学生以降)
2. 通信教育課程・シラバスの見方(2018 年度入学生まで)

シラバスの見方(2019 年度入学生以降)

①～⑩の説明は右紙面に記載

授業科目名	科目名	履修形態①	卒業・幼稚園教諭・保育士 必修or選択or選択必修						
授業科目英名	科目名(英文)								
担当教員	②	科目を担当する教員名							
履修年次	③	開講期	—	授業形態	④	単位数	⑤	授業時間数 (回数)	⑥
学習成果	⑦								
実務経験	⑧-1	⑧-2							
履修方法	⑨	科目CD	⑩						
受講要件	当該科目を受講する為の要件科目等が設定されている場合のみ記載有								
授業の概要	どのような知識、技能、態度を学ぶのか、授業の概要								
授業の目的	当該科目を学習する目的。なぜこの学習が必要なのか、履修することでどのように学ばかを理解した上で学習することが重要。								
授業の到達目標 1	授業の目的に対応して、学習をすることで身につけることができる能力								
}									
授業の到達目標 4									
成績評価方法及び基準筆記試験	成績評価の基準や方法								
成績評価方法及び基準レポート									
}									
成績評価方法及び基準備考									
	100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:D評価(不可) *原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者は、単位認定できない。								
授業計画	NO	担当教員	題目	内容					
	1	通信学習、スクーリング学習の15回(一部科目は8回もしくは30回)分の授業内容							
	2	*「通信・スクーリング科目」の場合、1～8(15)回は通信学習、16～23(30)回はスクーリング学習の授業内容を掲載							
	3								
	}								
	15								
教科書	授業で使用する指定教科書←必ず用意してください。								
参考書	学習する際に、指定教科書以外に参考となる書籍を紹介								
学習上のアドバイス	担当教員からのアドバイス								
準備学習(予習)	授業時間外の学習方法及び準備学習(予習・復習)の具体的な内容や方法								
準備学習(復習)									
試験対策	科目修得試験(スクーリング試験含む)の受験にあたり、留意点やアドバイス								
レポート作成等の方法・留意点	レポート作成にあたっての留意点、もしくは評価のポイント等 【通信科目、通信・スクーリング科目のみ記載】								
授業時間数(準備学習)	準備学習を行うために必要な時間数								
課題フィードバック	フィードバックの有無		フィードバックを行う場合の具体的な内容						

- ①履修形態:卒業や免許・資格を取得するための必修・選択・選択必修の区別を記載
②担当形態:担当教員が授業を担当する形態

担当形態	説明
単独	1人の教員が全てを担当する。
複数	1回の授業を2人以上の教員が担当する。
オムニバス	各授業回の担当教員が異なる。
クラス分け	クラスを分けて授業を行う。

- ③履修年次:当該科目が開講となる学年(履修登録が可能となる学年)

履修年次	説明
1	1年次以上の学生が履修することができる。
2	2年次以上の学生が履修することができる。
3	3年次以上の学生が履修することができる。

- ④授業形態:講義、演習、実技、実習のいずれかを記載
⑤単位数:当該科目を修得することにより、取得できる単位数
⑥授業時間数(回数):当該科目の授業時間数(スクーリング授業回数)
⑦学習成果:当該科目を履修する上で獲得可能な学習成果(4種、下表参照)を表示

【学習成果】(こども教育学科通信教育課程)

1. 基礎力	①連学の精神を理解し、常に向上させるために努力する力を身に付けることができる。 ②総合的な知識・技術を身に付け、対象児・者の最善の利益を考慮した発想力を持つことができる。
2. 実践力	①子どもの発達課題を理解し、教育課程に基づき指導計画をたて保育の計画と評価を実践することができる。 ②子どもを取り巻く環境を理解し、臨機応変に保育を展開できる。
3. フィードバック能力	①教育・保育・福祉の場における様々な場面での即応力を身に付ける。 ②物事の事象や本質を捉え、内容的確に他者に伝えることができる。
4. 地域理解力	①子どもと保護者を取り巻く社会的環境を踏まえ、地域の福祉や保育を担う専門職としての責務を身に付ける。 ②地域の特徴(自然や文化)を活かした福祉サービスを提供することができる。 ③地域福祉の推進の中核を担う専門職として、子どもの健全育成と子育て支援について地域や家庭と協働する力を身に付ける。

- ⑧実務経験、担当教員の実務経験と当該授業との関連:
⑧-1:担当する授業科目の内容と関連する実務経験がある場合は、「有」と記載。
⑧-2:⑧-1で「有」の場合、どのような経験を持ち、授業を行うか、具体的に記載。

- ⑨履修方法:当該科目の履修方法

凡例 通 信 :通信科目(レポート2通または1通+科目修得試験)

スクーリング*:スクーリング科目(スクーリング受講+スクーリング試験)

通信・スクーリング :通信・スクーリング科目(レポート1通+スクーリング受講+スクーリング試験)

実 習 :実習科目(学外実習+実習日誌等提出)

- ⑩科目CD:科目コード

科目修得試験やスクーリングの申込み時に使用。

同名称科目であっても入学年度により、科目コードが異なる場合があります。

シラバスの見方(2018 年度入学生まで)

①～⑩の説明は右紙面に記載

授業科目名	科目名	履修形態①	卒業・幼稚園教諭・保育士 必修or選択or選択必修							
授業科目英名	科目名(英文)									
担当教員	②	科目を担当する教員名								
履修年次	③	開講期	—	授業形態	④	単位数	⑤	授業時間数(回数)	⑥	
学習成果	⑦									
実務経験	⑧-1		⑧-2							
履修方法	⑨	科目CD	⑩							
受講要件	当該科目を受講する為の要件科目等が設定されている場合のみ記載有									
授業の概要	どのような知識、技能、態度を学ぶのか、授業の概要									
授業の目的	当該科目を学習する目的。なぜこの学習が必要なのか、履修することによってどのように学ぶかを理解した上で学習することが重要。									
授業の到達目標 1	授業の目的に対応して、学習をすることで身につけることができる能力									
{										
授業の到達目標 4	成績評価の基準や方法									
成績評価方法及び基準筆記試験										
成績評価方法及び基準レポート										
{										
成績評価方法及び基準備考										
	100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:D評価(不可) *原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者は、単位認定できない。									
授業計画	NO	担当教員	題目	内容						
	1			通信学習、スクーリング学習の15回(一部科目は8回もしくは30回)分の授業内容 *「通信・スクーリング科目」の場合、1～8(15)回は通信学習、16～23(30)回はスクーリング学習の授業内容を掲載						
	2									
	3									
		{								
	15									
教科書	授業で使用する指定教科書←必ず用意してください。									
参考書	学習する際に、指定教科書以外に参考となる書籍を紹介									
学習上のアドバイス	担当教員からのアドバイス									
準備学習(予習)	授業時間外の学習方法及び準備学習(予習・復習)の具体的な内容や方法									
準備学習(復習)										
試験対策	科目修得試験(スクーリング試験含む)の受験にあたり、留意点やアドバイス									
レポート作成等の方法・留意点	レポート作成にあたっての留意点、もしくは評価のポイント等【通信科目、通信・スクーリング科目のみ記載】									
授業時間数(準備学習)	準備学習を行うために必要な時間数									
課題フィードバック	フィードバックの有無		フィードバックを行う場合の具体的な内容							

①履修形態:卒業や免許・資格を取得するための必修・選択・選択必修の区別を記載

②担当形態:担当教員が授業を担当する形態

担当形態	説明
単独	1人の教員が全てを担当する。
複数	1回の授業を2人以上の教員が担当する。
オムニバス	各授業回の担当教員が異なる。
クラス分け	クラスを分けて授業を行う。

③履修年次:当該科目が開講となる学年(履修登録が可能となる学年)

履修年次	説明
1	1年次以上の学生が履修することができる。
2	2年次以上の学生が履修することができる。
3	3年次以上の学生が履修することができる。

④授業形態:講義、演習、実技、実習のいずれかを記載

⑤単位数:当該科目を修得することにより、取得できる単位数

⑥授業時間数(回数):当該科目の授業時間数(スクーリング授業回数)

⑦学習成果:当該科目を履修する上で獲得可能な学習成果(4種、下表参照)を表示【学習成果】(こども教育学科通信教育課程)

1. 基礎力	①建学の精神を理解し、常に向上させるために努力する力を身に付けることができる。
	②総合的な知識・技術を身に付け、対象児・者の最善の利益を考慮した発想力を持つことができる。
2. 実践力	①子どもの発達課題を理解し、教育課程に基づき指導計画をたて保育の計画と評価を実践することができる。
	②子どもを取り巻く環境を理解し、臨機応変に保育を展開できる。
3. フィードバック能力	①教育・保育・福祉の場における様々な場面での即応力を身に付ける。
	②物事の事象や本質を捉え、内容的に他者に伝えることができる。
4. 地域理解力	①子どもと保護者を取り巻く社会的環境を踏まえ、地域の福祉や保育を担う専門職としての資質を身に付ける。
	②地域の特徴(自然や文化)を活かした福祉サービスを提供することができる。
	③地域福祉の推進の中核を担う専門職として、子どもの健全育成と子育て支援について地域や家庭と協働する力を身に付ける。

⑧実務経験、担当教員の实務経験と当該授業との関連:

⑧-1:担当する授業科目の内容と関連する実務経験がある場合は、「有」と記載。

⑧-2:⑧-1で「有」の場合、どのような経験を持ち、授業を行うか、具体的に記載。

⑨履修方法:当該科目の履修方法

凡例 通信:通信科目(レポート2通または1通+科目修得試験)

スクーリング:スクーリング科目(スクーリング受講+スクーリング試験)

通信・スクーリング:通信・スクーリング科目(レポート1通+スクーリング受講+スクーリング試験)

⑩科目CD:科目コード

科目修得試験やスクーリングの申込み時に使用。

同名称科目であっても入学年度により、科目コードが異なる場合があります。